

神奈川県特命子ども地域アクター養成アクション

子どもと大人がともに地域に参画し合う社会基盤構築を目指して



神奈川県子どもの地域社会参画推進会議体

行政:神奈川県青少年課 丸山 尚子

NPO代表・事務局:NPO法人ミニシティ・プラス副理事長 岩室晶子

特命子ども地域アクターとは？

- この提案のモトとなった「神奈川県青少年問題協議会」では、子どもの視点から意見や提案をもらうため、平成23年度に「特命子ども委員」を募集し、8名の中学生・高校生が審議に参加している。
- この「特命子ども委員」は平成23年度末に任期が終わるが、希望があれば、**継続して参加し、まちづくりの現場でも活躍してもらいたい。**
- さらに、県内の子どもたちに「特命子ども地域アクター」への応募を広く呼びかけ、**24年度は30名の子どもたちと一緒にまちづくりに取り組んでいきたい。**

将来、目指す姿を「特命子ども地域アクター」が先行的に実施する



子どもたちが、地域の大人と一緒に、地域をつくっていく

子ども



本来、自由で主体性をもった子どもたちのはずなのに…

家、学校、塾だけを行き来する**専門子ども**が増え、多様な人とのコミュニケーションが取れていない。

地域の中で遊んだり、暮らしたりできていない。

主体的でない、社会性がない
→**ニートひきこもりの問題**

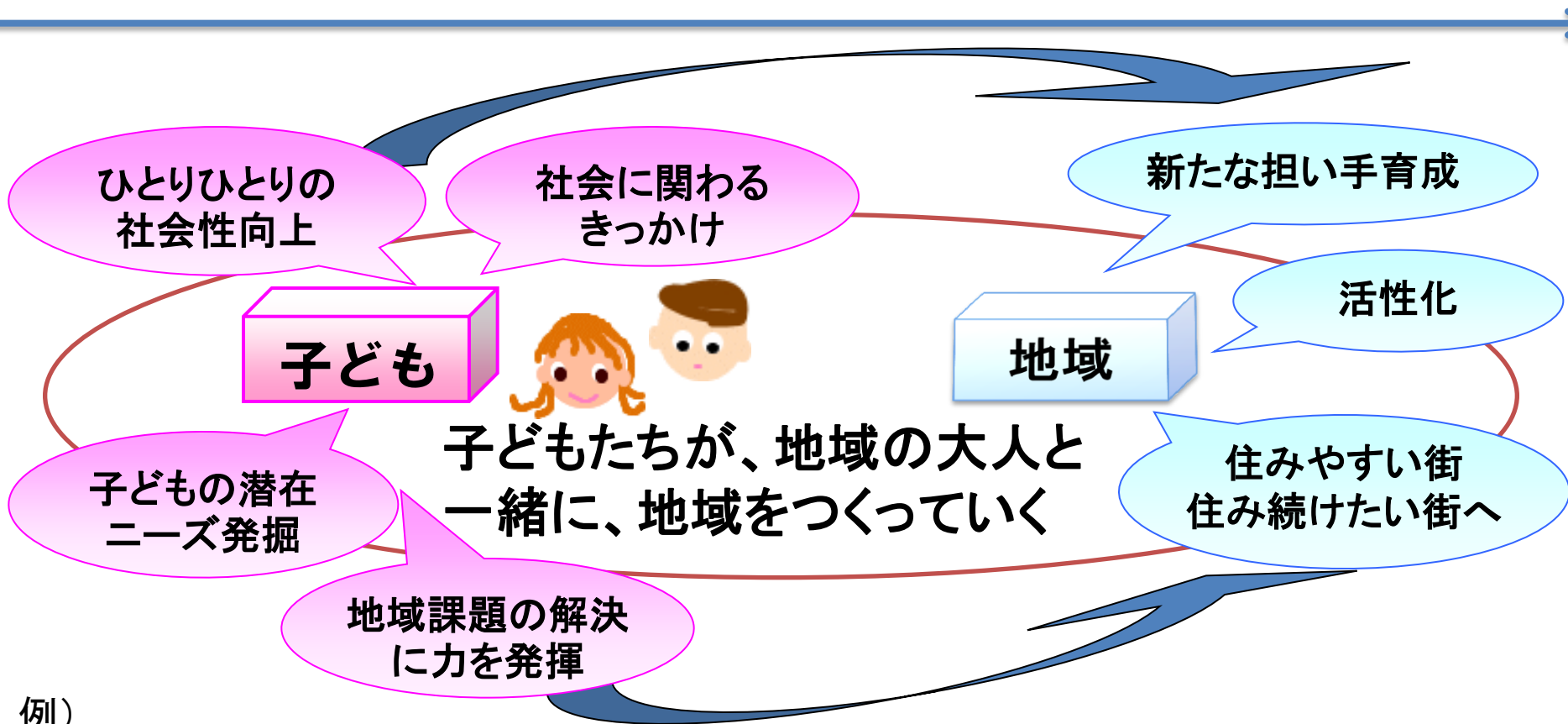
地域

自治会町内会、公園愛護会、地域活動、ボランティア団体の**高齢化、固定化**

子どもたちが関わるときには「お客さま」や「若い労力」「にぎやかし」だけで、子どもたちの満足度が低く、**地域活動に定着する次世代育成ができていない。**

本来つながっているはずのものが切れている

目指す姿



例)

- ・自治会町内会主催の防災訓練に企画会議から参加
 - ・地域のイベント、お祭りなどへの子どもたちの企画提案実施
 - ・地域まちづくり協議会などに委員として参加
 - ・公共施設の運営委員会などの一員として参加
- 子どもたちが参加したいものになり活性化していく
- 子どもの視点からの意見を聞くことができる
- 地域のまちづくりで、将来の重要なアクターとなっていく

23年度

1. 「特命子ども地域アクター」の養成・派遣

- ・子ども会議の定期開催

24年度

- ・まちづくり「いろは勉強会」及び
まちづくり現場への派遣の実施

2. 事業主体となる会議体及び協力体の設置

3. 「子ども地域社会参画フォーラム」の開催

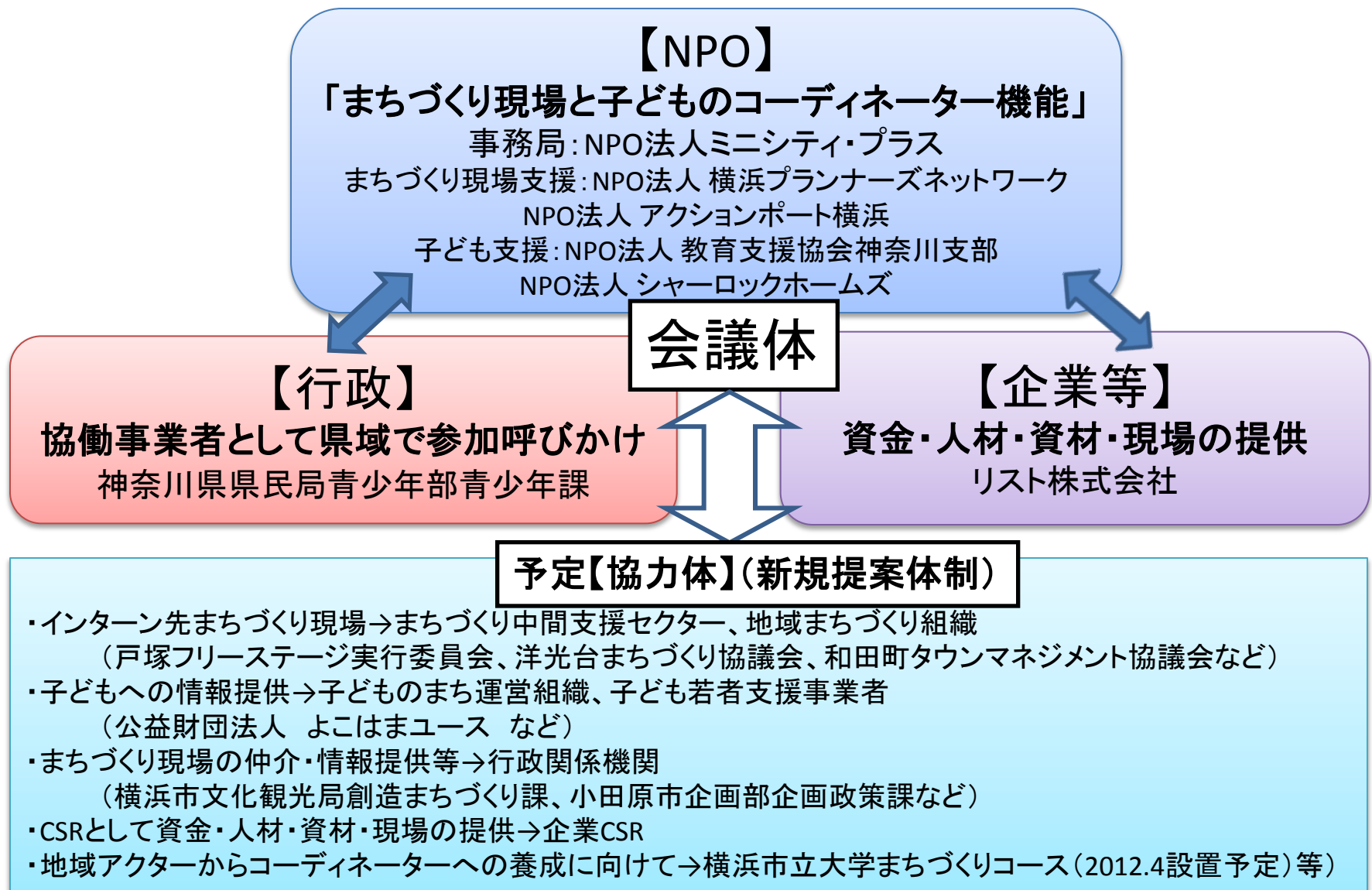
県内の地域まちづくり活動の担い手への発信



行政施策や地域・企業活動への反映

25年度以降も会議体 & 協力体を継続させていく

1. 事業主体となる会議体及び協力体の設置



1. 事業主体となる会議体及び協力体の設置

- 諸団体へ、協力体への参加呼びかけ
 - 情報交換・交流が可能な
イントラネット、WEBページ
制作・運営
 - 地域まちづくり団体向け
事業説明会開催
(県内3カ所程度)
- 全団体、特命子ども地域
アクター合同会議開催



2. 「特命子ども地域アクター」の養成・派遣

7



特命子ども地域アクター募集

- 対象
 - 中心は中高生。
ただし、一人で行動できる
意欲的な小学生高学年も含む。
- 人数 30人程度
- 公募開始 平成24年2月頃
- 任期
 - 平成24年4月～平成25年3月
- 選考方法 書類選考・面接

23年度

・子ども会議の定期開催

24年4月	子ども会合(メンバー顔合わせ)
5月	会議体・子ども合同会合(会議体との顔合わせ)
6月	地域まちづくり現場説明会・お見合い会 子ども会合(派遣先の調整)
7月	地域まちづくりの現場へのインターン派遣開始
8月	子ども会合(12月のフォーラム企画の検討)
9月	会議体・子ども合同会合(インターン報告)
11月	会議体・子ども合同会合(フォーラム準備)
12月	第1回子ども地域社会参画促進フォーラム
25年2月	25年度メンバー募集
3月	会議体・子ども合同会合 (年度末報告→提言発表 / 25年度メンバー承認)

・まちづくり「いろは勉強会」及び 「まちづくり現場インターン派遣」の実施

特命こども地域アクター

公募で集まった子どもたちに、
「企画書の作り方」
「ボランティア講座」
「まちづくり講座」等の
イロハ勉強会
計4回
で勉強してもらう。



24年度

まちづくりの現場

アクターが活躍できる場の開拓、調整

地域まちづくり現場説明会・お見合い会

説明会 3回 × 7団体



現場への派遣

アクターの現場への派遣調整(交通費等支給)

事務局の現場調査・報告
まとめ、報告会の開催

アクター30人 × 5日間



3. 「子ども地域社会参画フォーラム」の開催

特命子ども地域アクターの存在や活動を広く知ってもらうためのフォーラムの開催



例) 今の子どもたちに社会やまちづくりについて聞く「U-19シンポジウム」



例) 子ども先生による「大人の学校」

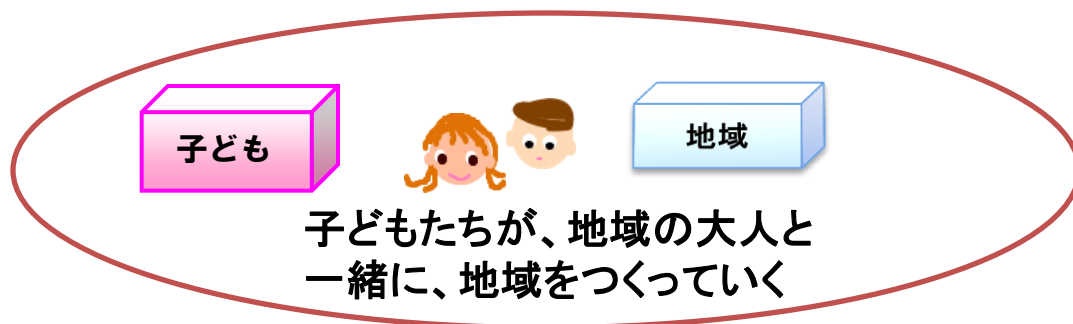


例) 子どもによる夏祭り開催

25年度以降の事業イメージ

会議体、協力体で構成する連絡会を継続的につくる

- ・事務局はNPO法人ミニシティ・プラスが担う
- ・特命子ども地域アクターの継続的な活動
- ・まちづくりに深く関わる企業からの支援や連携



子どもの社会参画
モデルとして
まちづくり以外の
分野への広がり

未来

特命子ども地域アクターが、まちづくりの担い手になり、後輩を育てていく…
自然に子どもたちがまちの中で活動する基盤ができる

子どもと大人がともに地域に参画し合う社会



農作業を障害者と建設業の方と
ミニヨコの子どもたちが一緒に



子どもたちのシンポジウムでの
司会進行をサポート



自分たちの活動をプレゼン



子ども会議で小さな子どもたちと

ミニヨコ卒業生から

私はこどもたちだけで自分たちの理想のまちをつくるミニヨコハマシティ市民として、高校生から活動してきました。

最初はどんなイベントかもわからず参加していました。普段知り合えない小中学生達と一緒に楽しく自分たちのまちのことを考え、活動してきました。ミニヨコハマシティは子どもが自ら社会をつくる、そんなまちづくりの実験の場でいつもわくわくします。

でも実際のリアルなまちでは、子ども達が意見を地域で素直に述べたりする等の場が少ないということも活動を通して知りました。私はまちづくりを大学で勉強したいと思い、今は、横浜の黄金町での活動や被災地での高台移転を手伝っています。

このように青少年の頃からまちづくりに積極的に参加していくことが、自分自身にとってプラスになるだけでなく、自分が関わったことでその地域を元気にし、未来につながる地域づくりになっていくのではないかと思っています。

地域は大人だけで作るものではないので、青少年の意見を取り入れられる環境がどんどんできたらと思っています。私もスタッフとして今度は後輩にまちに関わる楽しさを伝えたいです。